

# たかしまの人の動き 窓口だより



**人の動き (人口と世帯)**  
平成 18 年 2 月末日 現在

人口 …………… 55,930 人  
・前月人口 …………… 55,963 人 (-33)  
・前年同月人口 …… 56,242 人 (-312)

男 …………… 27,313 人  
女 …………… 28,617 人  
世帯数 …………… 19,125 世帯

平成18年2月11日から平成18年3月10日までの届出分(敬称略)

本ページの掲載情報は、個人情報保護の観点より許可をいただいた方のみ掲載しています。ただし、右記の人口増減は全数です。

## お誕生おめでとう！(出生)

氏名	性別	生年月日	ところ	氏名	性別	生年月日	ところ	氏名	性別	生年月日	ところ		
マキノ			朽木	高島									
野崎 実聖	女	2月14日	知内	玉垣 琴	女	3月4日	市場	八田 小春	女	2月15日	鴨		
今津	玉垣 寧々	女	3月4日	市場	村田 詩月	男	2月16日	鴨					
栗津 真緒	女	2月6日	日置前	安曇川	本間 大喜	男	2月16日	鴨					
森 輝	男	2月10日	下弘部	松井 和	男	2月5日	西万木	新旭					
中川 和奏	女	2月18日	住吉	伊藤 知里	女	2月5日	田中	市川 結菜	女	2月19日	旭		
山ノ井 碧音	女	2月20日	今津	深尾 敬也	男	2月10日	青柳						
岩佐 輝	女	2月20日	今津	清水 結衣	女	2月16日	末広						
森下 永愛	女	2月24日	浜分	佐野 伽恋	女	3月1日	下古賀						
本多 日菜	女	2月28日	松陽台	和田 寛人	男	3月2日	青柳						

## 謹んでお悔やみ申し上げます。(死亡)

氏名	性別	年齢	ところ	氏名	性別	年齢	ところ	氏名	性別	年齢	ところ		
マキノ			朽木	高島									
北野 アサ	女	85	海津	尾中正	男	74	市場	上原 はる	女	90	勝野		
古時 うめの	女	94	蛭口	川越 俊雄	男	79	野尻	中村 なつ子	女	81	武尊横山		
鳥居 ふさ	女	92	知内	津田 清	男	85	荒川	仁賀 ヤエ	女	85	勝野		
今津	柳川 サツ	女	82	古川	面村 ゑめ	女	89	拜戸					
桂田 ひで	女	96	福岡	安曇川	新旭								
川島 美津江	女	69	松陽台	石田 喜文	男	80	南船木	有田 峰五郎	男	55	安井川		
阪田 英雄	男	53	名小路	梅村 ミツ	女	88	四津川	泉 美智子	女	76	安井川		
杉澤 敏和	男	62	深清水	奥村 辰藏	男	89	四津川	長内 勝義	男	65	安井川		
高橋 明	男	75	住吉	熊谷 豊壽	男	88	常磐木	金村 世源	男	70	新庄		
土藏 あい	女	93	桂	後藤 一孝	男	69	青柳	多胡 め津	女	79	新庄		
西本 八十男	男	80	蘭生	中島 新太郎	男	74	青柳	庭川 テル	女	89	旭		
細田 昭男	男	65	松陽台	前川 シツ	女	84	田中	宮川 輝夫	男	73	旭		
弓削 弘	男	79	今津	前川 千代	女	76	田中						
万木 三義	男	64	今津	薬師川 かお	女	85	田中						

## 4月納付のお知らせ

■納期限までに納めましょう。納期限までに納付されない場合は、督促手数料や延滞金が加算されることになります。  
■口座振替の方は預貯金残高の確認をお願いします。

### ◆税

税目	期別	納期限
軽自動車税	全期	5月1日
国民健康保険税	第1期	

### ◆介護保険 1号被保険者(65歳以上)の介護保険料

税目	期別	納期限
介護保険料(普通徴収)	第1期	5月1日



お詫びと訂正 広報たかしま 3月号に掲載しました記事に下記のとおり誤りがありました。心よりお詫びして訂正いたします。

●3ページ 写真のコメント  
「朽木中での初給食のひとこま」  
朽木中(誤)→朽木東小

●8ページ 第1回高島市民体育大会スキー競技会の結果  
中学生男子リレー 高島中学(誤)→朽木中学(正)  
中学生女子 土蔵美加(誤)→土蔵未佳(正)

## ひょういんだより

### ◆産婦人科からのお知らせ

4月からの産婦人科外来担当は次のように変更になりましたので、ご了承ください。  
●水曜…非常勤医師(阿知波成行 Dr)



### ◆精神科神経科からのお知らせ

4月3日より、精神科神経科の診察日が、月曜日・火曜日・水曜日・木曜日(金曜日が休診)になりましたので、ご了承願います。  
●月曜…非常勤医師(市村麻衣 Dr) ●水曜…非常勤医師(田中和秀 Dr)  
●火曜…非常勤医師(藤原広臨 Dr) ●木曜…非常勤医師(藤原広臨 Dr)  
※ご不明な点は、精神科神経科でお気軽に確認してください。

## ひょういんだより

## 公立高島総合病院からのお知らせ

## シリーズ ④

### 就任にあたって

青野 充



4月1日より公立高島総合病院院長として着任いたします。長らく大学にて教育、研究および診療などをしてまいりました。次々と変化する医療環境は、地方の中核病院にとって厳しいものとなってきています。このような中で仕事を遂行していく事について、非常に重い責任と負担を感じておりますが、市民の皆様のご協力を頂ながらよりよい医療を築いていく所存ですので、宜しくご指導ご鞭撻お願い申し上げます。

さて簡単に、自己紹介いたしますと、専門は内科とくに消化器疾患を専門としています。主に胃腸疾患の病態生理について研究を行ってきました。大学院修了後、最初に大学で得たポストは、部所が栄養治療室(現在・糖尿病・栄養科)でしたので、少し糖尿病診療にも心得があります。最近までは、大学保健管理施設での仕事に関わり、毎日、キャンパス内での保健管理・保健指導および診療を主としてまいりました。全国大学保健管理協会の本部理事として、全国の会員のためいろいろとお世話をさせていただきました。また、大学附属病院では消化器内科において、外来診療を行ってきました。

高島総合病院へは約30年弱前の私が大学院学生時代に、当時国保高島病院であった時代、内科アルバイトとして週1回通っていました。湖西線が開通して間もなくのころでしたので、JRを利用したり、自家用車を使って病院へ通いました。自動車を使う時は、行きは自宅から湖西周りで、帰りは途中越・大原廻りで大学に立ち寄るのが高島通いの日常でした。湖西道路も出来ていなく、また大原・朽木・堅田の間では道路整備が始められた頃だったので、狭い道を通った記憶が蘇ります。丁度そのころ、長女が中耳炎で熱を出し、高島病院・耳鼻科で診てもらった後、病院の保育園で優しく遊ばせてもらったことがありました。今ではその長女も東京で内科医として仕事をしています。大学院修了後は高島病院へはご無沙汰してしまいました。

新任の抱負ですが上段に構えて言うのは得意ではありません。高島市が発足して1年超になります。この地域には総合医療病院としては公立高島総合病院しかありません。広大な高島市の市民および周辺市町の地域住民の医療環境を保全しなければなりません。市民の皆様が安心して医療を受け、常に信頼されるような病院であることを願っております。最近では遺伝子治療や移植医療など高度な医療も注目されていますが、地域医療機関で行うには限界があります。ある程度のトピック的医療で注目を集めるのも良いですが安全で安心できる医療も必要ではないのでしょうか。近年食習慣や生活環境の変化で肥満、耐糖能障害、高血圧や血液尿酸値高値の人が急速に増えています。その生活習慣を改めないため、やがて糖尿病、高血圧症、心臓・脳血管障害や腎臓病など生活習慣病になっていくわけですが、この病気になってしまふ方は著しく増加しています。病気早期発見のための健康診断(2次予防)よりは、健康を増進し病気にならないための対策(1次予防)を行うため、病院ができることを模索し一層の医療サービスができるよう努力いたします。

老朽化した建物は、病院を利用している人にとって鬱陶しく、治る病気も治らない気分させるものです。また、医療スタッフにとっては業務に支障を来すことも懸念されます。患者サービスを行う上で、病院新築は、早く取り組まなければならない事柄と願うものであります。

医師確保についてですが、2年前から新しい卒後研修制度が始められたため、大学医局を中心とする医師派遣体制が崩壊しました。この新しい制度が定着するにはまだ4~5年以上必要と考えられています。また、最近では、新卒の医師の労働への考え方が変わり、昼夜を問わない労働や訴訟の頻発する診療科を避ける傾向が顕著になり、産科・小児科や麻酔科の医師不足を招いています。都会の大規模病院に医師が集まる傾向があるため、地方病院では普通の診療科でも医師不足を来し、産科においてはより深刻な状態になっています。地域住民のニーズを考え充実しなければなりません。一方、人口の高齢化による医療費高騰と政府予算の縮小などで保険医療費改定の直撃をうけ、病院経営において無駄をなくしたスリム化も要求されています。諸刃の剣でどちらも立てづらいつながりがありますが、市民の皆様のお知恵をお借りして、最も合理的な体制を整えていく所存です。

以上、言葉足らずの挨拶になりましたが、再度、これから一層のご指導ご鞭撻を宜しく願ひ申し上げます。

### 公立高島総合病院を去るにあたって

片岡 善夫



本年3月末をもって定年となりますので、誌面を借りまして一言御挨拶申し上げます。通算で約30年間(昭和48年から5年間と昭和55年6月から現在迄の25年間)の永きに渡りお世話になりました。患者さん、その御家族、職員の皆様のお陰と感謝申し上げます。

その地域に、永くいると其処の事を語りにくくなると、誰かが言っておられたようです。確かに、そのように感じていますが、執筆依頼ですので敢えて記します。私は、なるべく、自然に逆らわない、無理しない姿勢でやってきたつもりです(小学校時代の今は亡き恩師から「素直であれ」と教えられてきましたから)。それに自分が元気でないと、つい自分を庇って、患者さんを充分に診ることが出来ないと考え、普段の健康状態には気を付けて来ました。

また、整形外科という運動器の疾患を診てきた関係で、スポーツ外傷の患者さんに比較的多く接して来ました。スポーツマンの爽やかさ、心肺機能の立派さなど多くの良い面に度々接し、スポーツ(運動)が人間にとって大切なことを実感して来ました。運動は、健康の維持、増進につながり、また、疾病の予防になります。何卒、皆様が出来ただけ普段の運動に心掛けられますようにお勧め致します。私は、今でも、週に3回ぐらい運動をするように心掛けています。

言い尽くせない思い出(楽しかったこと、苦しかったこと等々)が御座いますが、最後の2~3年は、国の医療改革の荒波に呑み込まれないように必死に堪えて、病院が曲がりなりにも、何とか動くようにやってきたつもりです。ご不満も多々おありかと思いますが、そのいくつかは、国の制度が原因で、すぐには解決が出来ず、如何とも仕方なかったと考えております。

時代の流れで何事も効率化が叫ばれますが、私は、尼崎の列車事故のニュースを聞いて、すぐに心に浮かんだことは、過度の効率の追求は恐ろしい事になるということです。反って損害(不利益)が大きくなるということです。私は、効率化の為に医療安全が犠牲になるというようなことが生じないように心掛け、出来るだけ住民に滋養県民として標準的な医療を提供したく、「医療の質」の確保に心掛けて来たつもりです。「経営」と「医療の質」の追求はややもすると片方が犠牲にされがちですが、病院や市の財政状況を考えると、これからは、ますます、バランス良く両者を求めていかなければならないと考えています。

当院は、当地域の医療にとって最も大切な救急医療を取り上げて、地理的な観点から、また、交通事情(高速道路が大津や湖東とつながっていないし、志賀町の北の方は、一本道しかない等)から、少なくとも、未だ当分の間、地域にとって無くてはならない病院であると考えています。

病院の患者さんの療養環境は、県内の他の多くの公的病院に比しかなり劣っています。また、災害対策上も、耐震性のある病院が地域に必要とされています。一部の病棟を除き、ベッド周りが狭く患者さんにとって大変気の毒な状態が長く続いています。このような状態が続きますと、医師も、医療に対して温かい考え、理解がある自治体の病院にて働きたいという思いになりますから、医師確保が益々難しくなると考えられます。何卒、関係各位の方々に宜しくご配慮をお願い申し上げます。

その他に、今後に望むこととして、私は、高島病院は、住民の皆さんの病院ですから、住民の皆さんがいろいろ意見を出し動かしていただきたいと思います。意見を出すには、当然ルールがありますが、宜しく願ひ申し上げます。後任の院長の下、病院機能の維持、ますますの発展を望んでおります。

最後に纏めますと、私の診療姿勢、皆様へのささやかなアドバイスと、感謝の気持ちを伝えました。そして、新病院(財政の観点から駄目なら、新病棟)の建設を早急にお願ひしたく筆を執りました。皆様の望まれている、また、必要とされている医療環境が早急に実現されますように願ひ、そして、皆様のご多幸、ご健康をお祈り申し上げます。

